

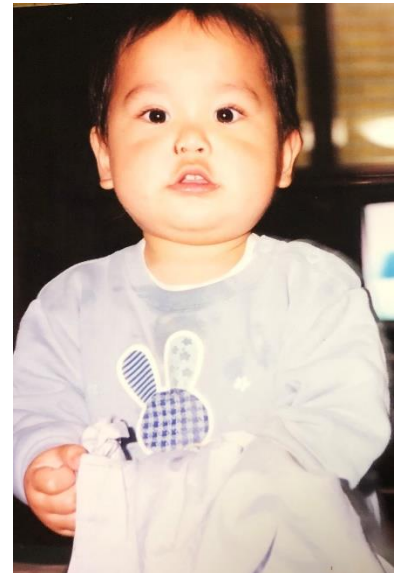
ほぼ月刊 桑名歴史こぼなし

Vol.11 2020年1月1日発行 西田有志選手特集号

編集・発行：©社会福祉法人 桑名市社会福祉協議会 文化スポーツ振興課 TEL0594-22-8311

<5歳で始めたバレーボール>

バレーボール界で急成長している**西田有志**（2000～、以下敬称略）は、平成12（2000）年1月30日に**員弁郡大安町石樽東**（現在のいなべ市大安町石樽東）の父**西田徳美**（1967～）、母**美保**の末っ子として**市立四日市病院**（四日市市）で誕生しました。父は岐阜県安八郡安八町、母は福岡県北九州市の出身で、ともに東芝名古屋工場（名古屋市西区）に勤務し、バスケットボールチーム「東芝名古屋」に所属していました。平成8（1996）年に自宅を新築して四日市市から転入した後、姉**早希**（1991～）が習っていた絵画教室が閉まることとなり、新しい習い事を探していたとき、礼儀や生活態度までしっかり指導する**大安バレーボールスポーツ少年団**女子チーム「大安ジュニア」を見つけました。続いて兄**圭吾**（1993～）も男子チーム「大安ビートル」に入団したことから、練習会場の**大安スポーツ公園体育館**（大安町大井田）と**大安海洋センター体育館**（大安町梅戸）に生後5か月から通うようになりました。小さい頃からバレーボールに親しみましたが、正式な大安ビートル（監督**伊藤カズ子**、後に**梅澤道夫**）入団は平成18（2006）年1月で、**石樽保育園**（大安町石樽南）年長クラスで5歳のときでした。このことについて本人は「やりたかったというよりは、バレーボールをすることが普通という感じで保育園年長のころから自然と始めました」と話しています。このときの伊藤カズ子監督の言葉「あせるな、くさるな、あきらめるな」は現在に至るまで西田の座右の銘となっています。



<大安ビートルで全国大会に出場>

平成18（2006）年4月の**石樽小学校**（大安町石樽南）入学後も大安ビートルで週3回の練習（水・土・日曜）に励みます。4年生の平成21（2009）年には**第29回全日本バレーボール小学生大会三重県大会**で優勝し、8月11～14日に東京体育館（東京都渋谷区）等で開催された全国大会に出場（背番号5）しました。この話題は8月1日発行の**いなべ市広報リンク**第69号で「夢は叶う～小さくてもやればできるんだ!」と題して採り上げられました。このときの身

上段：小学校時代の西田有志（前列中央）と家族
中段：幼児期の西田有志（いずれも西田徳美氏提供）
下段：大安町スポーツ公園体育館



長は144cmでしたが、6年生の時には160cmまで伸び、卒業間近の平成24(2012)年には北勢選抜チーム「**北勢アタッカーズ**」(背番号2)に所属して2月26日の**第6回北勢バレーボール保々交流会**(四日市市)でBブロック1位となり、3月の**下呂温泉湯けむりバレー交流会**でも準優勝となりました。自宅居間の天井には今も画鋸が残っていますが、ここに広告を貼りつけて高く跳ぶ練習をしたそうで、6年生で天井まで届くようになりました。卒業後の進路は強豪校を目指すかどうかを検討しましたが、地元に通いたいという本人の希望から**大安中学校**(大安町石樽東)に進みました。

<中学時代に強豪8校から勧誘を受ける>

くわなれきしはなし

平成24(2012)年4月、大安中学校バレーボール部に入部したところ、小学校からのバレーボール経験者が皆無で、監督も未経験者でした。そのため新入生ながら先輩や同級生たちを指導することが多かったといいます。部活動とは別に**海星高等学校**(四日市市追分)バレーボール部の練習に参加したところ、互角にプレーできたことから**藤田勝成**(1965~)監督が注目しました。6月に藤田の勧めで中学生クラブチーム「**NFO オーシャンスター**」に入団し、海星高等学校体育館での練習に通いました。NFOとは、三重県バレーボール協会の役員を務める**中尾聡**(1964~、現ヴィアティン三重バレーボールゼネラルマネージャー)、藤田、**大西正展**(1962~、前海星高等学校バレーボール部監督)の頭文字を取ったものです。平成25(2013)年3月2日にはU-14の北勢選抜チーム「**ジュニアラクス**」(背番号10)に選出され、**第4回東海ブロックU-14クラブチャンピオンシップ男子バレーボール大会**にも出場しました。

主将を務めていた3年生の平成26(2014)年12月に**JOCジュニアオリンピックカップ第28回全日本都道府県対抗中学バレーボール大会**で決勝トーナメントに進むと、その抜きん出た実力は注目を集め、**星城高等学校**(愛知県豊明市)、**松阪工業高等学校**(松阪市)、**皇学館高等学校**(伊勢市)、**津工業高等学校**(津市)をはじめ8校もの強豪校から勧誘を受けました。当然、海星高校も入学を勧めており、3年生の秋に大安中学校で大西、中尾の両指導者が本人と両親に面談し、進学を決めました。当時の海星高校は決して強豪校ではありませんでしたが、「**勝って当たり前ของทีมに入って勝つのではなく、自分の力で立ち向かいたい**」とハングリー精神旺盛に語ったそうです。

上段：自宅の部屋(いなべ市大安町石樽東)、下段左：跳躍練習に励んだ自宅居間天井の画鋸
下段中央：ヴィアティン三重時代の優勝ペナント、下段右：ヴィアティン三重のユニフォーム





平成 28 年 9 月 25 日、大阪府門真市のなみはやドームで行われた
第 19 回全国ヤングバレーボールクラブ優勝大会（ヴィアティン三重提供）

<海星高校バレーボール部を県大会優勝に導く>

平成 27（2015）年 4 月、海星高校に入学し、**丹生川駅**（大安町丹生川中）から**三岐鉄道三岐線**と**近畿日本鉄道名古屋線**を乗り継ぎ、**塩浜駅**（四日市市）からは自転車で通学しました。同月には**三重県高等学校春季バレーボール大会**でいきなり準優勝し、平成 28（2016）年 2 月の**三重県高等学校新人バレーボール大会**でも準優勝となりました。3 月 22～25 日に開催された**第 21 回全国私立高等学校男女バレーボール選手権大会**には三重県代表として出場したものの、予選突破はなりませんでした。2 年生では 4 月の春季大会、5 月の**三重県高等学校総合体育大会**、11 月の**三重県高等学校選手権大会**でいずれも準優勝となりますが、優勝できなかったのは強敵松阪工業高校が立ちどかっていたためです。

11 月にバレーボール部**主将**に就任すると、平成 29（2017）年 2 月の新人大会においてついに**創部以来初の県大会優勝**を果たしました。3 月には**第 23 回東海高等学校バレーボール選抜大会**でも準優勝しました。3 年生では 4 月の春季大会、5 月の三重県高校総体で優勝し、7 月に山形県で行われた**全国高等学校総合体育大会（インターハイ）**ではベスト 16 入りしました。高校最後の試合は 11 月 11 日のことで、**三重県高等学校選手権大会**決勝戦でした。ここで敗れて準優勝となった翌 12 日に**V リーグ・ディビジョン 1（1 部リーグ）**に所属する**ジェイテクト STINGS**（スティングス、名古屋市中村区）に選手登録されました。

アジアユース選手権のお祝い
（東員町中上、西田徳美氏提供）

<ヴィアティン三重バレーボールU-19 での活躍>

平成 28（2016）年 4 月 1 日、**桑名市和泉**に本拠地を置くクラブチーム「**ヴィアティン三重バレーボール**」が U-14 と U-19 のふたつのジュニアチームを作り、西田は U-19（背番号 5）に所属しました。同日に行われた**天理大学**との合同練習では大学生と互角に渡り合う西田の活躍が注目されました。6 月 26 日、**第 8 回三重県ヤングバレーボール選手権大会** U-19 男子の部で優勝して 9 月 25 日の**第 19 回全国ヤングバレーボールクラブ優勝大会**でも優勝し、優秀選手として**日本ヤングクラブバレーボール連盟賞**を受賞しました。このときのチームメイトには一学年上で四日市工業高等学校出身の U-23 日本代表**難波堯弘**（1998～、四日市市出身、現天理大学バレーボ



ール部) もいました。試合後のインタビューでは「バレーボールでは一人で点を取れないので、点
が取れた時にチームみんなで喜び合えるのが最大の魅力だと思います」(三重のスポーツ情報誌
『ヴィアティン』第 20 号) と話しています。10 月には岩手で開催された**第 71 回国民体育大会**(背
番号 6) にヴィアティン三重バレーボール U-19 のメンバーがほぼそのまま出場し、ベスト 16 と
なりましたが、国体終了をもって U-19 は解散となりました。

この間、8 月 23~29 日には中国寧波市で開催された**第 24 回日・韓・中ジュニア交流競技会**(背
番号 7) に出場し、初めて日本代表としての国際試合も経験しました。出場にあたって事前にいな
べ市長日沖靖(1959~)を表敬訪問した際、「初めての経験で力が通用するか試してみたい。最終
的には全日本に入って戦いたいです」と意気込みを語っています。平成 29(2017)年 2 月 18・19
日には**第 14 回 2017 全日本ジュニアオールスタードリームマッチ**に WING(ウイング)チーム(背
番号 9)として出場して 1 位となりました。3 月 29 日~4 月 5 日開催の**第 11 回アジアユース男子
選手権大会(U-19)**(背番号 6)では**史上初の優勝**を飾り、10 月には**第 72 回国体**(背番号 9)で
キャプテンとして出場しました。特にアジアユース選手権での優勝では平成 30(2018)年 2 月 15
日に三重県から**三重県スポーツ新人賞**、三重県体育協会から**特別優秀選手賞**を受賞しました。

<ジェイテクト STINGS から史上最年少で V リーグデビュー>

高校 3 年生になると旧知の天理大学をはじめ大学や V リーグのチームから多くの勧誘を受けま
した。現在所属するジェイテクト STINGS との出会いは**長井浩二**副部長の息子が西田のプレーに
目を付け、平成 28(2016)年夏の東海大会に**寺嶋大樹**総監督(現スーパーバイザー)から声をかけ
られた時のことです。偶然にも**ジェイテクト**(本社大阪府大阪市中央区)には兄が**桑名工業高
等学校**(芳ヶ崎)卒業後に入社していた縁もあり、練習に参加した後、平成 29(2017)年 10 月 15
日に内定し、11 月 12 日に高卒内定選手として入団(背番号 14)しました。その実力はスカウト
担当者をして「間違いなく日の丸を背負うことのできる逸材です」と言わしめました。平成 30(2018)
年 1 月 6 日、西田は堺ブレイザーズ戦に途中出場して**史上最年少**で V リーグ公式戦デビューしま
した。翌日の JT サンダース戦ではスターティングメンバーとして出場してスパイク決定率 70%
を記録する驚異の活躍ぶりでした。2 月にはホームタウンである**愛知県刈谷市**の寮に移り、3 月 1
日の海星高校卒業式では**体育賞**に加えて**特別功労賞**が贈られました。ちなみに 3 年生のときは大
西コーチ(平成 30(2018)年 1 月にヴィアティン三重バレーボールに所属する**井口拓也**(1989~)
監督が就任)からアジアユース男子選手権出場のお祝いとして譲られたロードバイクで片道 25km
の道のりを自転車通学し、夜には近所を走り込んで体力づくりに取り組みました。



<西田有志と桑名との関わり>

西田と桑名の関わりはヴィアティン三重だけではありません。平成 29 (2017) 年 8 月 30 日には三重県知事鈴木英敬 (1974~) から「**チームみえスーパージュニア**」指定選手に認定されたことから、その育成金でトレーニング用品を買いそろえたのは大安ビートル時代から利用している**服部スポーツ桑名店** (中央町) でした。同店には西田有志のサイン色紙が飾られ、取材に対応した**田中真美**販売マネージャーは「写真より実物はもっとかっこいいです」と話していました。ここではインターハイの応援タオルや応援用プリントジャンパーも作成しました。また、就職前に自動車運転免許を取得しておこうと 12 月に**長島総合自動車学校** (長島町西外面) に入校しましたが、練習のために思うように教習が受けられず、取得できたのは平成 30 (2018) 年 3 月のことでした。7 月には休暇を利用して**三井アウトレットパークジャズドリーム長島** (長島町浦安) で買い物をしていたところ、「**個人的にジャズドリームへ出かけたんですけど、やっぱりバレちゃいましたね**」と海星高校同窓会のインタビューに答えています。なお、令和 2 (2020) 年 1 月 9~13 日には**六華苑** (桑名) において「**バレーボール 西田有志選手 特別展**」を開催し、小学校から全日本までのユニフォーム、思い出の写真等を展示します。



服部スポーツ桑名店
(中央町)



ジェイテクト STINGS のロゴ
(ジェイテクト STINGS 提供)

<日本代表入りと東京五輪出場への期待>

平成 30 (2018) 年 3 月、バレーボール男子日本代表「**龍神 NIPPON**」(監督中垣内祐一 (1967~)) メンバーに選ばれ、4 月 1 日にジェイテクトに入社するも新人研修を数日受講しただけで 9 日からの**味の素ナショナルトレーニングセンター** (東京都北区) での合宿に参加しました。その後、5 月 25 日~6 月 24 日の FIVB (国際バレーボール連盟) **バレーボールネーションズリーグ 2018** で 12 位となり、9 月 13~18 日の **2018 年バレーボール男子世界選手権** では 1 次ラウンド突破はなりませんでしたが。令和元 (2019) 年 5 月 31 日~6 月 30 日開催の**ネーションズリーグ**では 10 位に上がり、9 月 1 日には**いなべ市広報リンク** 第 190 号で「**いなべから世界へ**」と題した特集が生まれ、**2019 年ワールドカップバレーボール**を前にインタビュー記事が掲載されました。10 月 1~15 日に広島県立総合体育館 (広島市中区)、マリンメッセ福岡 (福岡市博多区)、長野市真島総合スポーツアリーナ (長野市) で開催されたワールドカップでは西田の大活躍もあって 4 位となり、69%という突出したサーブ決定率を記録して**ベストサーバー賞**を受賞しました。この活躍により西田の知名度は全国的に高まりました。当然、令和 2 (2020) 年 7 月 24 日に開会する**第 32 回オリンピック競技大会** (東京オリンピック) での活躍が期待され、

前頁左側：ジェイテクト STINGS の
ユニフォーム (西田徳美氏提供)

前頁右側・本頁下段：プレーする西田有志選手
(ジェイテクト STINGS 提供)



西田自身も「メダル」を目標に掲げています。本紙取材に対しても両親は「ビッグマウスと言われるけれど、それを実現してきているからすごい。バレーボールに関しては昔から妥協がなかった」と言いつつも、「ワールドカップでは津田学園高等学校（野田）でバレーボール部だった姉から『どうしてあんな球もとれないの！』と怒られていたし、わが家では位置づけが一番低く、いじられキャラですよ」と笑顔で語ってくれました。それほどに仲がよい家族です。



<西田有志選手からひとこと！>

本紙取材に対して西田有志選手本人から桑名のみなさんへコメントをいただきました。「これからも強くなって結果を出していきたいと思いますので、これからも応援よろしくお願いします。」とのことです。今後の活躍を期待したいです。※本紙画像の無断転載はご遠慮ください。

右上：平成31年の西田家の年賀状写真（右下）
中段：平成30年1月2日、桑名とんちゃんぶたの道（福島、左から姉、本人、兄、以上西田徳美氏提供）
下段左側：愛犬銀（ぎん、メス、12歳、屋外犬）
下段右側：愛犬天（てん、オス、10歳、屋内犬）
下：西田有志選手（ジェイテクト STINGS 提供）



@ JTEKT STINGS OFFICIAL